

結論		本 論													序論
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
主張	事例の まとめ	事例③				事例②				事例①					問い 主張
危険性を理解しておけば、おどろきのニュースや新しい出来事に満ちたインターネットはいろいろなものに出会う、わくわくした冒険になるはずだ。筆者の主張	うそや大げさな情報、お金のために情報を拡散する仕組み、フィルターバブルにおちいる民に気付きにくいのは、気軽に便利に使える仕組みが危険も生み出すから。	友達や家族、周りの人たちと話してみることで、情報が少しずつちがうことに気付くことができる。対処法 自動的 自動的に情報が選ばれることで、自分の興味がある情報、自分がそうだと思いやすい情報に囲まれる「フィルターバブル」におちいりやすい危険がある。危険 特徴 インターネットには読み手一人一人に届く情報がちがうという特徴もある。自動で自分に合わせたものを選んでくれるので時間の節約になり便利。 有名人が「ヒーローの小学生」を探していること、「自分も小学生を見た。」というコメントの多さから、友達は助けたのは小学生だと信じ込んでいた。 危険 多くの人が情報を見れば、その情報を発信している人にお金が入る仕組みも、情報が広がる特徴の原因。				事実かどうか不確かなまま様々な情報がインターネットを駆けめぐり、うわさがいつしか本当のことであるかのように変化していく。危険 特徴 インターネットには情報が広がるのが速いという特徴もある。ボタン一つでシェアする仕組みで人を助けることもできる。 「助けたのは小学生かもしれないね。」と話した自分の内容がインターネット上に広がっているのだろうか。 対処法 だれが発信しているのか確かめることが大切。 危険 だれもが情報を発信できるため、うそや大げさなものも混じるといいう危険がある。 特徴 インターネットは記者でなくても、だれもが情報を発信できるため、わたしたちが知ることができる世界は大きく広がった。 川には人だかりができさわぎになっていた。 「小学生が助けたってインターネットで話題になっているよ。」					インターネットで新しい情報を得ていく冒険は、楽しくもあるが危険ともなうため、インターネットの特徴と危険を知っておくことが大切だ。筆者の主張 (インターネットにはどのような特徴や危険があるのだろうか。隠れた問い)				